2023年9月 第1版 第1刷
2026年4月 第5版 第1刷

**女性はもちろん、男性も
HPVによるがん発症のリスクがあります!**

多くの人が一生に一度は感染
ヒトパピローマウイルス（HPV）とは

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）ですが、**「HPV感染＝がん」ではありません。**HPVは、実はどこにでもあるウイルス。主に性的接触で感染し、性経験がある人の80%以上が、一生に一度は感染すると言われています。

HPVは通常、体の免疫力で自然に検出されなくなります。しかしまれに持続感染する場合があり、さらにそのうちの一部の細胞が、がんへと進行していきます。

男性も無関係ではありません

HPVは、男女問わず感染の可能性があります。コンドームでも完全に防ぐことはできません。またHPVの持続感染は、様々ながんの発症に関与しています。

HPV が引き起こすがん

女性	男女共通	男性
子宮頸がん	中咽頭がん（のどのがん）	陰茎がん
膣がん	肛門がん	
外陰がん		

中咽頭がんは
圧倒的に男性に多い！

**ティール＆ホワイトリボンは、
近年20代～30代の若い女性に増えている
「子宮頸がん」の啓発シンボルです。**

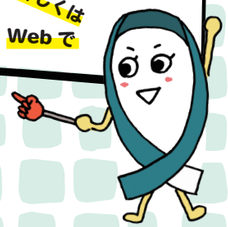
**子宮頸がん検診啓発動画
「初めて子宮頸がん検診を受けてみた」**

子宮頸がん検診を受ける前に、
ぜひチェックしてみてください！

認定NPO法人キャンサーネットジャパンで実施している「ティール＆ホワイトリボンプロジェクト」は、子宮頸がんについてエビデンスに基づいた情報を発信しています。

https://www.cancernet.jp/cancer/cervical

詳しくは Web で



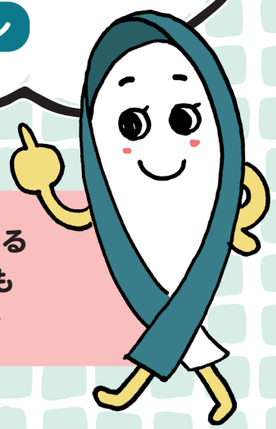
CancerNet Japan

制作：認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K&K ビル 2 階
電話：03-5840-6072　mail: info@cancernet.jp

みんなに
もっと
知ってほしい

子宮頸がんの予防のこと

検診・ワクチン



**～すべての人に関係がある
あなたも、パートナーも
未来ある子供たちも～**

もっと、知ってほしい、女性のこと ®
子宮頸がん啓発キャンペーン
ティール＆ホワイトリボン

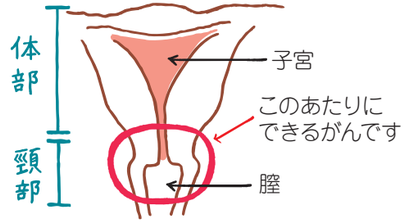
監修：宮城 悦子（横浜市立大学医学部産婦人科学教室 主任教授）

**がんは「自分には関係ない」と
思っていませんか？**

いま 20～30 代の女性に増えている
子宮頸がんとは

子宮頸がんとは、子宮の入口（子宮頸部）にできるがんです。若い世代で増加傾向にあり、現在、日本では毎年約1.1万人が子宮頸がんと診断され、**毎年約3,000人が亡くなっています。***

* 出典：国立がん研究センターがん情報サービス



子宮頸がんは予防できます

子宮頸がんの発症には、ほとんどの場合、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスが関与しています。HPVは、**一度でもセックスの経験があれば、男女問わず、だれでも感染の可能性があります。**

しかしご安心を。子宮頸がんは、適切に行動すれば**予防ができるがん**なのです。予防のためにできることは2つ。**HPVワクチンの接種**と、**定期的な検診**です。

どちらも重要！子宮頸がんを防ぐためにできる2つのこと

ワクチン

HPVワクチンで感染を予防

初めての性交渉を経験する前が最も効果的！
小学校６年生〜高校１年生相当の女子は、
HPV ワクチンを公費で受けることができます。

ワクチン Q&A

Q. どこでワクチン接種を受けられますか？

A お近くの医療機関（婦人科、小児科など）や、住民票のある自治体でご相談ください。接種回数は２〜３回。ワクチンの種類や年齢により回数や間隔が異なります。※2回接種は15歳未満の女子で9価ワクチンのみです。

Q. 接種の対象年齢を過ぎてしまいました…。

A 定期接種の対象年齢を過ぎても、ワクチンを接種することによって一定の効果が得られると報告されています。自費での接種となりますが、医師と相談してみてください。

Q. セックス（性交渉）の経験後でも効果はありますか？

A 性交渉の経験後でも、まだ感染していないHPVの予防効果が期待できます。ただし、すでに感染しているウイルスを排除する効果はありません。

Q. 副反応が心配です。

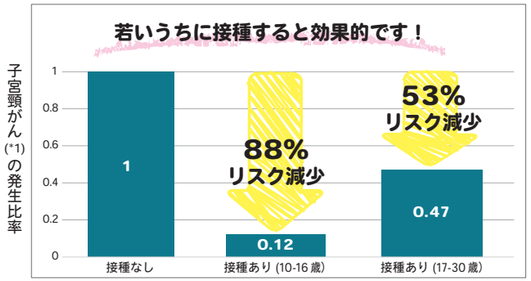
A 接種部位の痛みや腫れなどは80%以上の人に生じるとされます。また、まれに重いアレルギー症状などが起こることがあります。気になる症状が出た時は、すぐに医師に伝えましょう。

ワクチンにより子宮頸がんにかかるリスクが低下するデータがあります

ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されています。

HPVは200種類以上の型があり、そのうち約15種類が子宮頸がんの原因になります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぎます。
現在、日本で公費で受けられるのは、子宮頸がんを起こしやすい９つのHPVの型に対応する「９価」のHPVワクチンです（2026年4月現在）。子宮頸がんの原因となるHPVの感染を80〜90%を防ぎます。

＊2022 年より、国による **HPV ワクチンの積極的勧奨が再開**されています。



HPV ワクチンの接種有無 (*2) と接種年齢（スウェーデン）

スウェーデンにおけるワクチン接種なしの子宮頸がん発生率を 1 とした場合、それぞれの年代で接種した場合の子宮頸がんの発生率を示しています。
(*1) 浸潤性子宮頸がん　(*2) 接種ありは 1 回以上の 4 価 HPV ワクチン
出典：Lei J, et. al. NEJM 2020;383 より宮城悦子医師が作図

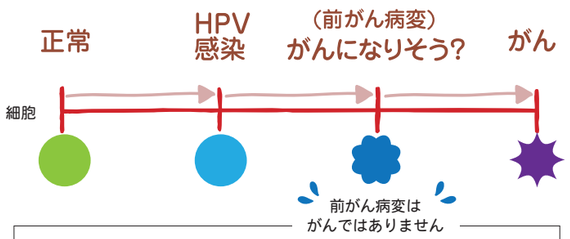
検診

子宮頸がん検診で早期発見

定期的な検診で、がんになる手前で見つけることができます。

子宮頸がん予防にワクチン接種はとても効果的。でも、がんを 100% 防げるわけではありません。**ワクチン接種の有無に関わらず、定期的に検診を受ける**ことが子宮頸がん予防の基本です。

しかも検診では、「がんになっていないか」だけでなく、「がんになりそうな細胞があるか（前がん病変）」も調べることができます。早期に対処できれば、子宮を失わずに治すことも可能です。



前がん病変が見つかったら、経過観察でよいか治療が必要かについて、担当医とよく話し合って下さい。

ワクチンを打っていても、いなくても 20 歳になったら２年に１回、子宮頸がん検診を受けましょう！(*1)

検診 Q&A

Q. 検診はどこで受けられますか？

A 医療機関（産婦人科）で受けられます。住民票のある自治体から定期的にクーポン券をもらえることもあります。

Q. 特に症状はありませんが…。

A 検診は症状がないときに受けるものです。また子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がありません。症状がなくても定期的に検診を受けることが大切です。

Q. 検査ではどんなことをしますか？

A 専用の器具を使い、子宮頸部の細胞を採取します。痛みを感じることはほとんどなく、数分で終わります。気になる場合は女性医師のいる病院を探すのも手です。

Q. 検診のデメリットはありますか？

A 少し出血することがあります。また、検診の精度は100%ではありません。がんを発見できなかったり、がんがないのにがんの疑いがあると判定が出たりする可能性もあります。
しかし、それらの可能性は低く、検診を受けるメリットはデメリットを上回ることが証明されています。

不正出血などの自覚症状がある場合、保険診療として産婦人科を受診することが重要です。

(*1) 30歳以上の女性はHPV感染有無を調べる「HPV検査単独法」の検診も細胞診単独法とともに推奨されています(HPV検査単独法の場合は異常がなければ5年に1回)。
詳しくは自治体にお問い合わせください。